



日時：2025 年 10 月 30 日（木）19:00～20:30

会場：Zoom

出席理事： 赤木 禎治、石津 智子、稲井 慶、今井 靖、 岩田 祐輔、上村 秀樹、大内 秀雄、落合 亮太、小野 博、笠原 真悟、桂木 真司、 齋木 佳克、坂田 泰史、 坂本 一郎、 塩瀬 明、庄田 守男、立野 滋、照井 克生、中埜 信太郎、 簗 義仁、檜垣 高史、兵藤 博信、平田 康隆、平松 健司、水野 芳子、三谷 義英、宮崎 文、八尾 厚史、山村 健一郎、（29 名）

欠席理事： 榎本 淳子、新川 武史、瀬尾 由広、先崎 秀明、辻田 賢一、長坂 安子、安田 聡、山岸 敬幸、吉松 淳（9 名）

監事： 松尾 浩三、森 善樹

顧問： 市田 路子、丹羽 公一郎、松田 暉

## 1. 開会

理事の過半数が出席したため、理事会が成立し審議を行った。

## 2. 報告事項

報告事項 1：前回議事録報告（担当：赤木理事）

前回（第 2 回）理事会議事録が報告され、承認された。

報告事項 2：各委員会委員長より報告（各委員長）

### ・将来構想委員会（赤木理事、稲井理事）

2026 年度理事、評議員改選について

新理事は退任される理事 5 名の補充が基本。推薦書は理事 1 人 1 通しか書けない。評議員は人数制限はない。推薦書も複数書けるが、1 施設 1 名まで。

12/18 の次の理事会で承認される予定であることが報告された。

### ・学術委員会（稲井理事）

研究部会（石津理事）： 新規研究はないことが報告された。

教育部会（山村理事）： 5 月 25 日の第 32 回セミナーは 157 名が参加し、満足度も高かったことが報告された。 11 月 1 日開催予定のセミナーは、予算の都合上、参加費を 3,000 円から 5,000 円に値上げした（理事会審議済み）。現在の申込者は 92 名であり、各施設での一層の広報が依頼された。

YIA 選考部会（八尾理事）【資料 1】

1) 2024 年 YIA 審査結果の報告

4 件の充実した応募があり、最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名を選出した。

学術集会企画部会（檜垣理事）

今回は間に合わなかったが、すでに充実のプログラムとなっている。

・学会誌編集委員会（坂本理事）

現在も査読中 5 編あり活発な投稿があること、外科系査読者の確保の問題があることが報告された。

赤木理事より、学会誌からも優秀論文賞を選んではとの提案がなされた。齋木理事から移植学会でも同様の賞があり賛同するとの意見があった。新設する方向で動くこととなった。

・専門医制度委員会（石津理事）

1) 認定職制度について(赤木理事)【資料 2】

麻酔科医や産婦人科医など、非循環器領域の医師・専門職を対象とした「学会認定専門職」制度の新設案が報告された。基準として、学会活動への参加実績 および ACHD 専門医 2 名からの推薦状。11 月中に公募を開始し、次回理事会で承認するスケジュール。

また、現行の専門医制度では専門医の資格を有していないが、学会に対する貢献度の高いシニア会員に対し、推薦制の専門医認定の可否についても、来年以降検討することとなった。

試験問題作成部会（宮崎理事）：（審議事項にて後述）

専門医認定部会（立野理事）：（審議事項にて後述）

修練施設部会（八尾理事）：（特記事項なし）

・移行医療・専門医制度普及委員会（三谷理事）

日本循環器学会と連携して進めている「移行医療に関する提言」について、現在改訂作業中であることが報告された。

赤木理事より、川崎病学会から成人期川崎病（AKD）のフォローアップ体制構築に関する協力依頼があったことが報告された。三谷理事より、AKD は最近海外でも注目されており、マネジメントはこの学会が担うべきとの話があった。CVIT レジストリに「川崎病」の項目がなく、PCI 等の実態が把握できない問題も共有された。心臓血管外科の NCD データでは成人川崎病に対する手術のデータが抽出可能であり論文報告されたことも共有された。中埜理事が班長を務める 2027 年日循環

動脈疾患ガイドライン改訂版では今のところ川崎病の項目はないが、今から可能な限り連携し、JSACHD として他学会とも協力してこの問題に取り組む方針が確認された。

- ・倫理委員会（宮崎理事）：(特記事項なし)

- ・保険委員会（小野理事）【資料 3】

- 1) 令和 8 年度診療報酬改定について

令和 8 年度診療報酬改定に関する厚労省ヒアリングが終了し、年明け 2 月頃の結果判明を待つ状況であると報告された。小児科学会からも要望が出ている「移行期支援」関連の項目が採用される可能性があるとの情報が共有された。

- ・移植委員会（齋木理事）

心腎同時移植などの多臓器移植について、日循や心臓移植学会でも議論が開始されつつあることが報告された。国内の移植関連データベースが「TRACER」として統合・稼働開始したことを受け、学会として ACHD 患者のデータ利用申請を行い、重症心不全の実態把握や二次調査につなげていくことが提案された。

- ・渉外委員会（笠原理事 赤木理事）

笠原理事より、12 月に香港で開催される WCPCCS（世界小児循環器学会）において、外科系のファカルティが極端に少ない問題が指摘され、今後の国際学会におけるプレゼンス向上の必要性が確認された。

赤木理事より、2026 年 6 月 18 日～20 日に、Asia-Pacific ACHD Symposium がインドネシア（バリ島）で開催予定であることが報告された。

- ・広報交流委員会(山村理事)

ACHD TIMES（今月第 43 号）が、学術委員会の協力のもと順調に刊行されていることが報告された。

- ・財務委員会(立野理事)：（審議事項にて後述）

- ・多職種専門職委員会(水野理事) 【資料 4】

- 1) 多領域専門職委員会活動の拡大
- 2) 学術集会多領域専門職委員会企画パネルディスカッション
- 3) 学術集会多領域情報交換会企画
- 4) ACHD セミナー企画: 5 月 25 日のセミナーにおける社会保障の多領域セッションも好評であり、11 月 1 日のセミナーにおいても、多職種セッション（生活指導がテーマ）が企画されていることが報告された。

#### <関連委員会>

- ・日本循環器学会学術委員会、先天性心疾患成人先天性心疾患部会（山岸理事）
- ・成人先天性心疾患対策委員会：循環器内科ネットワーク（八尾理事）

#### 報告事項 3：

第 27 回日本成人先天性心疾患学会学術集会について（坂田理事）

演題数が 250 題（一般 194 題）集まったことへの感謝が述べられた。プログラムの特徴として、①2 日間開催（社会実験）とそれに伴う一部セミナーの廃止、②最終セッションとしての「ナイトメアセッション」の配置、③一般市民にも対象を広げた市民公開講座、④中川俊一先生を招聘しての ACP に関する特別講演・セッション、⑤初の試みとなるカテーテル治療ハンズオンの開催、が報告された。

第 28 回日本成人先天性心疾患学会学術集会について（斎木理事）

テーマ「優しさと強さを兼ね備えて、理想の ACHD 医療に近づく」が紹介され、ポスターが供覧された。会期は 2027 年 1 月 22 日・23 日で準備を進めていることが報告された。

### 3. 審議事項

#### 1. 財務委員会（立野理事）【資料 5】

##### 1) 学会支給の宿泊費の上限増額

東京都内の宿泊費高騰を受け、上限を 15,000 円から 20,000 円に増額する案が提案され、審議の結果、承認された。

##### 2) 学術集会における海外招聘者の費用負担等の明確化

従来、韓国との相互交流で発生していた招聘費用（交通費・宿泊費）について、学会本体の予算（年 30～40 万円程度）として明確化し、費用は学会が出し、支払い手続きは学術集会側に一本化する案が提案された。審議の結果、学術集会への補助金とは別枠の予算として計上し、この方針で進めることが承認された。

##### 3) 学術集会ビデオ撮影およびウェブ掲載費用の確認

学術集会の教育セッション等の撮影・M3 掲載費用（1 日 11 万円＋諸経費）について、現状が報告された。

##### 4) 学会事務管理費用の変更

委託先（国際文献社）からの事務管理費用（メール審議対応費用 などを含む）の値上げ案が提示され、審議の結果、承認された。

##### 5) 学術集会抄録集の費用についての確認とウェブ抄録の検討

費用削減のため、今後の学術集会では抄録集の冊子印刷・郵送を原則廃止し、「Web 抄録＋会場でのポケット版プログラム配布」を基本方針とすることが提案された。審議の結果、この方針が承認された。

## 2. 専門医認定委員会（立野理事）【資料 6】

### 1) 第 3 回 専門医試験結果説明と審議

9 月 15 日に実施された第 3 回専門医試験（受験者 45 名）の結果が報告された。採点委員会の審議により、不適切問題（共通 1 問、内科 2 問）の採点調整を行った結果、合格基準（得点率 70%以上等）に基づき、39 名（内科 33 名、外科 6 名）が合格（合格率約 80%）、6 名が不合格となった。審議の結果、この試験結果は承認された。

### 2) 審査過程で問題になった制度の報告

審査過程で判明した以下の制度上の問題点が報告され、今後の対応が議論された。

①「関連学会」の定義の曖昧さ

② 病院移動による受験資格（過去 5 年規定）の喪失

③ 外科医の学会誌査読機会の不足

これらの課題に対し、一度筆記試験不合格となった場合の書類審査免除規定（2 回まで）の新設 や、外科医の更新基準の見直し（学会誌査読の点数化など）について、今後、制度委員会で審議していくことが了承された。

## 3. 次回理事会日程について

2025 年度第 4 回理事会 12 月 18 日(木)

## 4. 閉会